

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190200315		
法人名	株式会社 エルフィス		
事業所名	ぬくもりのすまいエルル両三柳		
所在地	鳥取県米子市両三柳206-1		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvsoCd=3190200315-00&PrefCd=31&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市宗像53-46		
訪問調査日	平成27年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達に関わる全ての人々が元気で健康的な生活を送り、あらゆることに感謝・感激・感動出来る企業になろう」を経営理念に、利用者様お1人お1人を大切に楽しく生活して頂いております。併設の保育園がありますので、利用者様と子供達がいつでも触れ合える環境の中でスタッフと共に笑顔や笑い声が絶えない明るい環境です。また、保育園の年間行事には利用者様も参加され、毎回とても楽しみにされています。地域の新鮮な食材で素材を大切にした手づくりのお食事で健康的に過ごして頂いております。医療ニーズのある方でも、訪問看護との連携を図りながら安心して生活して頂けるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設の保育園、交流リハビリ型デイサービス、近隣に認知症デイサービス、複合型サービス等に囲まれた中にグループホームがあります。「私達に関わる全ての人々が元気で健康的な生活を送り、あらゆることに感謝・感激・感動出来る企業になろう」の経営理念のもと管理者、職員は認知症を理解し笑顔で家庭的な支援を行っておられます。併設の保育園の園児の明るい声が聞こえ行事など交流があり高齢者と子供たちの暖かい触れ合いがあります。食事にも力を入れられており、地元の食材を多く使い、手作りの食事となっており利用者にも好評です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念を掲示し、会社の理念・方針を職員全員で共有している。 認知症を知り、その人を知る為に寄り添うケアを心がけ、その人の住みよい住まいとなるよう取り組んでいる。	「私達に関わる全ての人が元気で健康的な生活を送り、あらゆることに感謝・感激・感動出来る企業になろう」の経営理念を事務所内の見えるところに掲示してある。年初、期末の職員面談の折にも管理者が理念の説明をしている。職員は認知症を理解し寄り添いながら理念に沿ったケアを実践されている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、清掃活動や地域行事に積極的に参加している。食材は地域内の商店から新鮮な品を仕入れている。夏には夏祭り、冬にはクリスマス会等を開催し、地域の方にも参加して頂いている。地域の方がボランティアで将棋を指しに来て下さっている。	自治会に加入され清掃活動や地域行事に積極的に参加されている。地区運動会、球技会には会社として参加されている。法人全体で行われる夏祭り、クリスマス会は地域の方にも参加頂いている。同一敷地内に法人の保育園もあり、園児と交流も日常的にある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において民生委員の方や自治会長等と情報を共有し、相談があった場合には相談に応じている。それ以外にも、地域の方より相談がある場合には相談に応じている。高校生の職場体験も受けている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、利用者様の状況や活動状況などの報告を行っている。会議参加者から意見を聞き、サービス向上に活かしている。防災に関しては、地域の防災訓練にも参加し、地域と共に取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催されている。利用者・家族代表、市介護保険担当者、地域包括支援センター職員、地区自治会長、民生委員参加され利用者状況、活動状況の報告、意見、要望等話し合わせサービスに活かされている。地域の防災訓練に参加され、地域と共に取り組んでおられる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者・包括支援センター職員にも運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。又、アドバイスを受けている。	市介護保険担当者、地域包括支援センター職員は運営推進会議に参加頂き情報交換をされている。日頃より市担当者とは、制度改正や地域包括ケアについてなどサービスの相談をされている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は危険防止の為施錠を行っているが、日中は施錠は行わない。利用者様の様子をしっかりと観察し、外出を希望される場合は職員が付き添いを行い、職員の都合で拘束を行わないように全職員が心掛けている。	日中は施錠せず利用者の様子を見守り、外出を希望される方には職員が付き添っている。スピーチロックについては管理者は都度口頭で説明をされている。職員は利用者丁寧に状況を説明するようにされている。
				定期的に身体拘束、接遇の研修が行われても良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様は1人の人間であるという事を常に意識し、不適切なケアが行われないように気を付けている。又、管理者は職員が介護困難に思っている事例はないか適宜職員の話を聞くように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点でそのような事例はないが、対応が必要と思われる場合や相談があった場合には、地域包括支援センターや市町村担当者へ相談し、繋げていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書等に基づいて説明を行い、同意を得ている。疑問等があった場合にはその内容についてきちんと説明し、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、又、受診の為に来訪された時には必ず話をする機会を設け、ご家族との関係作りに努め、意見や要望が言いやすいよう心掛けている。	家族面会時、受診同行のため来所時に意見、要望等聞いている。介護計画更新、変更時にも伺うようにされている。頂いた意見、要望等は職員会議等で話し合わせ、運営に反映させられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて意見交換を行うようにしている。又、定期的や必要時には個別に面談を行い、職員と話し合う機会を設けている。管理者は、職員の声に耳を傾け、意見を引き出せるよう努めている。	月1回ミーティングで意見交換が行われる。個別面談は年2回行われている。必要時に個別面談も行われ意見、要望を聞く機会を設けている。ほーむはチームワーク良く、日常的にも意見要望など言い易い雰囲気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談の際に、職員の思いを把握し、管理者は常務・社長へ伝えている。 職員のモチベーションが高められるよう職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員1人1人に目標管理シートを作成し、職員個々に合った目標が達成出来るよう取り組んでいる。又、外部研修等の情報を提供し、研修に参加出来る機会を作っている。他施設への見学も行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者が、全国民間介護事業者協議会・鳥取県民間介護事業者協議会・複数事業所連携事業(鳥取県の事業)に所属しており、同業者と研修を受ける機会を設けている。研修の内容の中には、他県の施設を見学する研修もあり、様々な同業者と関わる機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前面談を行い、本人の生活状況・身体状況等の情報収集を行い、又、施設の見学に来て頂き、施設の雰囲気を感じて頂いている。入居前には面談で得た情報を元に、カンファレンスを行い、利用者様の不安が少しでも解消出来るように努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族と面談を行い、ご家族の思いを理解するように努め、要望をしっかり聞き取るよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の相談の際に、グループホームで提供出来る支援の内容を説明し、さらにその他のサービス内容も説明し、様々な方向性で判断出来るように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と一緒に調理や掃除や洗濯等を行い、利用者様から生活の知恵を教わる事もある。ゆっくり話をしながら散歩をし、利用者様に寄り添い共に時間を過ごしている。誕生会などの企画をし、常に利用者様に喜んで頂くためにどうすべきかを考えて行動するよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の訪問時には、利用者様の近況を報告し、ご家族の知らない一面を報告出来た際には一緒に喜びを感じている。ご家族と話す機会を大切に、さらに細かな利用者様の情報を収集し、ご家族と職員が共に支援を行う関係作りに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・知人などの面会の際には、ゆっくりと話が出来るように居室などに案内している。食堂で話をされる場合は、皆でお茶を飲みながら談話が出来るように対応している。また、夏祭りなどのイベント時には、ご家族へご案内し、一緒に過ごして頂いている。	家族、知人の面会時は居室でゆっくりと話せるようにされている。夏祭り等イベントの時は家族に案内を出し一緒に過ごせるようにされている。家族が馴染みの理美容店や墓参りに連れて行かれ馴染みの場所や人との継続が行われている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の得意・不得意を把握し、利用者様の持てる力が発揮出来、役割を感じて頂けるよう働きかけている。利用者様の状態を把握し、利用者様同士のトラブルが回避出来るよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、ご家族へ連絡を行い、相談に対応出来るようにしている。 次の住まいで不安なく過ごす事が出来るように情報提供を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中において、利用者様の声を大切にし、利用者様の思いを受け止め、意向に沿った対応に努めている。利用者様の表情や言動からも意向がくみ取れるように心掛けている。	日々の関わりや会話の中から思いや意向を聞きだしている。「関係作りシート」を家族に記入してもらい参考にしてている。困難な方には日々の関わりの中から、家族から生活歴を聞くなど把握してている。	利用者の方の生きがいや目標についても把握できると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に協力を頂き、関係作りアセスメントシートを記入して頂き、利用者様の生活歴・好きな食べ物・子供の頃に楽しんだ遊び等、少しでも多くの情報を得るように努めている。又、知りたい情報はご家族に伺うようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等を活用し、職員間で情報を共有している。又、担当職員が担当利用者の有する力の発見に努め、新たな情報はスタッフミーティングの際に情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフミーティングにおいて課題をあげ、より良いケアの方法を検討している。又、必要時には主治医や看護師からも意見を聞いている。	スタッフミーティングで課題を決めケア方法を検討し介護計画を作成している。モニタリングは入所1ヶ月後、その後は3ヶ月毎に1回実施されている。。評価は3ヶ月に1回実施されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やチェック表、業務日誌や職員間の連絡ノートを活用し、情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節を感じる事が出来るよう、その時期に合った行事や外出レクを行っている。利用者様1人1人の誕生日には、併設の保育園児と交流し、誕生会を行っている。緊急な受診が必要となった場合、ご家族が対応出来ない場合には、訪問看護と連携を図り、受診介助やかかりつけ医との相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入り、地域の行事に参加出来るようにしている。併設の保育園児や学童児との交流をとても楽しみにされている。保育園の入園式・卒園式・運動会・発表会へも参加して頂いている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族が希望される在宅時からのかかりつけ医への受診・往診に対応している。受診の際には普段の様子をご家族がかかりつけ医へ伝えられるよう情報提供を行っている。	在宅時から利用され希望するかかりつけ医の受診、往診に対応されている。受診は家族が同行され状態説明される。結果は家族からホームへ口頭で伝えられる。やむをえない場合はホーム職員が同行受診される。急変時の場合は訪問看護に連絡をされる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約しており、定期的に訪問して頂く際や、必要時には気軽に相談し、連携を図っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供を行っている。入院中には面会に伺い、病院での様子を情報収集するよう努めている。退院時には、ソーシャルワーカーと連携を図り、必要時にはカンファレンスを依頼する。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望を伺い、出来る限り要望に沿えるように努めている。ご家族・主治医・訪問看護・グループホーム職員で話し合いを行い、方針を確認して対応を行っている。	重度化や終末期に向けた方針については、入居時にも説明されますが、重度化、終末期が近くなったときに説明をし、家族の要望を聞き、家族の協力も頂ける体制であれば看取りも実施されます。職員、主治医、訪問看護と共にチームで支援に取り組まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急連絡網を作成し、全ての職員が把握している。消防職員によるAEDを使用しての救急救命講習にも参加している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員立ちあいの元、年2回避難訓練を行っている。地域の防災訓練にも参加しているが、協力体制は出来ていない為、今後の課題である。	避難訓練、防災訓練を年2回実施されている。地域の防災訓練に参加して避難場所まで避難訓練もされた。原発災害のためヨウ素を備蓄している。今後ホームは災害時に地域の方の受け入れする事も検討中である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴・排泄に関する支援については、利用者様の自尊心やプライバシーに配慮した対応や声掛けを行っている。往診や面会時にもプライバシーが保てるように配慮を行っている。	職員会議で声かけ、プライバシー保護について話し合いをされている。往診時や面会時にもプライバシーが保てるよう入り口の戸は閉めている。トイレ誘導の声かけは「ちょっと行きましょう」と言葉つかいに注意をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様に押しつける形でなく、自己選択して頂けるような声掛けを行っている。利用者様が理解出来る内容で声掛けをし、返事を急かせず利用者様からの答えを待つ姿勢を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様自身のペースを大切にし、起床時間・入眠時間などその人のペースに合わせている。急な外出希望があった場合にも出来るだけ希望を尊重し、臨機応変な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様が着たい服を選んで着て頂き、女性の方は化粧なども本人の希望に沿って行なってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	炊飯やみそ汁作りを利用者様と一緒にしている。その他におかずの盛り付けや食器洗いなど利用者様それぞれの能力に合った役割を担ってもらっている。利用者様の希望されるメニューを提供したり、出前をとるなどして食事を楽しく頂けるように努めている。	ごはん味噌汁作り、おかずの盛り付け、下膳、食器洗いを職員と一緒にしている。昼食はバイキング的に行われ利用者は自分で量を加減され食べられる。おやつ作りは毎月1回実施。年末は年越しそば、正月はおせち。ラーメンの希望があれば出前をしてもらわれるなど多様な支援をされ楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のもと、バランスのとれた食事を提供している。食事や水分摂取量はチェック表に記入して把握し、食事量や水分量が少ない利用者様へは好みの食べ物やゼリー等で工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、自分で出来る方は自分で行ってもらい、最後に残渣物の確認をしている。自力で困難な方に対しては職員が必要な介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要な方へはトイレ誘導を行い、快適に過ごして頂けるように努めている。排泄状況はチェック表に記入し、情報共有を行っている。出来る限りトイレでの排泄が出来るように心掛けている。	排泄パターンを把握され声かけ、トイレ誘導が行われ自立に向けた支援が行われている。夜間、トイレでは転倒の恐れがありポータブルトイレを使用される方がおられる。排泄状況をチェック表で把握し出来る限りトイレで排泄の支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量や排泄状況を把握し、常に訪問看護と連携し、腹部状態の把握に努めている。運動などを行い、自然排便を促せるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回の入浴が出来るように対応している。その日の状態によって入浴が出来ない場合は、翌日に入浴出来るようにしたり、臨機応変に対応している。ゆっくり入浴して頂けるように時間を配慮している。	2日に1回の入浴支援が行われている。日曜日は休止だが希望があれば入浴できる。体調不良のときは翌日入浴等対応される。拒否傾向の方についても職員の話し合いで統一した声かけで入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間にゆっくりと休んで頂けるように、日中に適度な活動量が確保出来るように努めている。その時の状態によっては、日中でも休息を取りたいと希望される場合もある為、その際は希望に沿うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々のファイルに綴り、職員が内容を把握出来るようにしている。新たに薬が処方された際は、必ず訪問看護師に確認をしてもらい、注意事項等は看護師より指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の能力を活かし、役割を持って頂けるように心掛けている。炊事が得意な方、食器洗いが得意な方、洗濯が得意な方、それぞれの役割を持って活躍して頂いている。畑仕事が好きな方には畑仕事をお願いし、歌が好きな方にはカラオケに出かけて頂き、楽しみを味わって頂けるように心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけ、気分転換を図れるように対応している。季節ごとの外出や外食など、利用者様の希望に沿った対応を行っている。必要時にはご家族へ依頼する事もあるが、急な外出希望にも柔軟に対応出来るように努めている。	ホーム周りを散歩して気分転換を図っている。季節の行事で外出をし外食を楽しまれる事もある。家族と出かけられ外食をされる方もある。急な外出希望にも対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、自己管理能力のある方には小遣いを自己管理して頂き、希望時には一緒に買物へ出かけ、利用者様の希望される物を購入して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を持っておられる方は、ゆっくり電話をして頂けるよう配慮している。家族への電話を希望される場合は、施設の電話を使用してゆっくり話して頂けるよう配慮している。年賀状などの希望がある場合は、希望に沿い、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、利用者様と一緒に作成した作品を掲示している。利用者様の好きな音楽を流したり、利用者様皆で食卓を囲むようにし、家庭的な雰囲気作りを心掛けている。	玄関や居間に季節の花や、利用者が作られた作品が飾られている。居間にソファや観葉植物がありくつろぐことができる。居間は窓が広く光を多く取り込み明るい。室温も調整されており過ごしやすくなっていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席を固定していない為、その時その時で座りたい場所に座り、気の合う方と会話を楽しめるようにしている。天気の良い日(暖かい日)には、テラスのベンチでくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力にて、写真や使いなれたタンスやテレビなど、馴染みの物を持ち込んで頂いている。又、居室に鉢植えを置いたりゆったりと過ごして頂ける部屋にしている。	写真や使い慣れた筆筒、テレビなどを持ち込まれ生活空間が落ち着ける環境を整えられている。鉢植えを持ち込まれるなどゆったりと過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状況に応じて、福祉用具を活用する事で少しでも多く出来る事が増えるように対応している。利用者様に合わせて居室やトイレの目印をつけて見守りを行っている。		